



わたしの聖戦

女性が働くことについて

181

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

カタカナ英語は摩訶不思議

言葉は生き物である。また、同時に流行りものでもある。

最近、「インクルージョン」という単語が目についた。

元は英語。「包括」「一体性」という意味のはずだが、ビジネス界では、組織の中で「目的を同じくし帰属意識を持つること」と「自分の個性が価値あるものと認められていると感じる」との両方の感覚を持てる時に実現する、とある。単なる名詞を超えて、このような複雑怪奇な概念として使われているのを知って、ただでさえ苦手な英語がよけいに嫌になっ

少し前から「ダイバーシティ」も頻繁に使われるようになった。

こちら、てつきり東京の台場にある複合施設かと思いきや、「性別や人種の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとするマネジメント」のことだと知った。その意味自体、格別新しくもないのに、この言葉を知っている人と知らない人とは、もはやコミュニケーションは成立しないに違いない。そもそも、この種のカナ英語はいったい誰が流行らせているのだろう。10年くらい前には「ウ

イン・ウイン」があった。これはまだわかりやすい。「交渉などで双方に好都合なこと」、特に政策面において、と断りを入れてい辞書もある。なんと胡散臭い。双方にとつて都合が良いことなどあるのだろうかと思

排除する臭いに満ちている。いまだに「ウイン・ウイン」と口にする人に出会うと、思わず目がテンになる。若者がよく使う「ヤバイ」と同様に、思考や感情の貧弱さが露呈され、居心地が悪い。



問に思う。たとえば、たとしても、いい思いをするのは二者だけで、双方以外の第三者にとつては都合の悪い状況が生じる。このほうが多いのではないか。そう考えると「ウイン・ウイン」は、ずいぶんと身勝手に他を

の「ダイエット」はイコール「痩せる」ではない。元来は、「食餌療法」と訳される単語で、「定食」「健康的な食餌」「生活習慣病予防食」などともいう。つまり、健康づくりのために規定された食生活、といったと

ころか。さらに「ダイエット」は、古代ギリシヤ語「ディアイタ」からの派生語である。ディアイタは、「生活様式」とか「生き方」のこと。本来は、その人らしいライフスタイルという、実に美しい響きを持つ言葉だ。痩せるという単純化された意味だけではもったいない気がする。

……などということをして徒然（つれづれ）なるままに考えていたら、ニューヨークの交通公社が「レディース&ジェントルマン」のアナウンスを止めるというニュースが目に入った。男性同性愛者などの性的少数者への配慮だという。英語ができなくても、誰もが知っているだろうこのフレーズがなくなるとは！やはり言葉は、時代とともに変わりつつ人々の意識を鋭く反映する生き物なのだ。

イラスト・伊藤栄章